



パチンコ・パチスロ産業界は常に「社会」を意識して物事に対処すべきだと話す庄司孝輝会長

——いま産業界は非常に難しい時期にありますが、であるからこそむしろ率直に質問して、庄司会長のご意見を伺いたいと思います。さっそく今一番課題になっている問題から入ります。「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機」いわゆる「くぎ問題」について2015年1月の全日遊連課長講話で指摘があり、警察庁は5月に「くぎ」についてホール関係5団体に対し「不正改造絶無」の要請を出しましたが…。

「くぎ問題」への対応遅れがあり

庄司孝輝会長 課長講話では以前から常に不正改造について取り上げられていましたが、特に「くぎ」について取り上げられたのが、昨年1月の全日遊連での講話でした。業界に対する処分の中身として「そのほとんどが、遊技盤下部の左右に存する一般入賞口付近のくぎを狭めているか、大当たり抽選が作動する中央入賞口の釘を調整…」とし、型式検定制度の根幹を揺るがすと指摘しています。

同じ講話で、「遊技機の設置や部品変更に伴う適正な手順」について講話され、その問題については

社会的視野に立ちながら 業界の活性化に取り組も

現在、パチンコ・パチスロ産業は厳しい状況に置かれています。「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機」に関して、昨年1月の全日遊連での課長講話から5月の警察庁の「不正改造絶無の要請」、健全化推進機構の「性能調査」、日工組の「責任の一端」報告、日遊協など6団体「撤去回収」声明、21世紀会宣言、日工組の「対象機」公表、ホールにおける具体的な回収撤去へ、と業界は次々激しい波のなかで揺れ動きました。いわゆる「くぎ問題」の対応に奮闘してきた庄司孝輝日遊協会長にその経過の意味するところと今後の展開を中心に話を聞きました。

聞き手・「日遊協」編集委員会

日本遊技関連事業協会 会長 庄司孝輝

日遊協も加わって具体的に取り組まれたのですが、「くぎ問題」については問題解決への立ち上がりが遅れ、やはり半年以内に実態調査などの対応を急ぐべきでした。

**利害対立しても
業界全体で対応**

——6月には遊技機性能検査が始まって結果は思わしくなく、11月には日工組が「責任の一端」を明らかにしましたが、各団体間でこの問題の受け取り方に差異があり、日遊協に対する批判なども一部にあったようですが、日遊協の基本

的なスタンスは当初から変わっていませんでした。

庄司「くぎ」は、出荷時の問題となり日工組の責任が明らかになりましたが、ホールには設置責任があり、責任者の管理責任もあります。我々は知らなかった、じゃすまないわけです。メーカーとホールには利害が対立する部分もあるなるべく自分たちの立場を守りたいのは理解できますが、今回の問題はどちらの責任か追及したり、双方が自己主張している場合ではないと思います。

このような危機では、社会問題化させないためにも業界を挙げて早く対応することが非常に重要です。常に一般社会がどう考えるかということも考えなければなりません。業界の中に閉じこもっていいことはできません。

日遊協では、昨年7月から全国7支部で「健全化勉強会」を開き、本部の考え方、方針を伝えました。また現在も各支部2度目の「勉強会」を開催して状況判断、今後の取り組みを徹底しています。

**「回収対象機」を
速やかに撤去へ**

——会長は大変苦労されたと思

ますが、結局昨年末12月25日に日遊協、日工組などが6団体声明、全日遊連は日工組と警察庁に健全化宣言する変則な形になりました。

庄司 さまざまな議論はありましたが、日工組、全商協、同友会、余暇進、PCSA、日遊協で意見をまとめ「対象機」の可及的速やかな撤去回収を声明しました。全日遊連は、この声明に関し理事会の了承を取るのに時間がかかるため、別の対応になりました。

6団体は早期の解決を優先させたいわけですが、全日遊連は全国的な連合会組織として合意形成に時間がかかるのです。

周囲をよく見るのが団体の責任です

——しかし、緊急の課題のときは、会長が指摘するスピードが大切だと思いますが、いつもあることでしょうか、組織や団体間の調整など、どう考え、対処したらいいのでしょうか。

庄司 それぞれの団体はそれぞれ事情を抱えており、組織内の意見をまとめる必要もあります。その上での団体間の調整は難しい側面はあります。ただ、事が起きた時は速やかに対応するのは団体の責

任で、何かを決める時に団体の事情だけでなく、行政当局の考え、ファンの思い、有識者の見解など周囲の状況を十分に考慮するのも団体の責任です。

その点、日遊協は横断的組織として各団体の意向も汲みやすく、客観的立場も取りやすいので、果たせる役割は大きいと思います。

残念だった報道 要請も生きずに

——6団体声明の前日に読売、毎日新聞が報道し、その後全国に広まりました。マスコミに対する警戒を会長は呼びかけていましたが、業界として足りなかったのでは。

庄司 声明の前日というのが残念でした。記事の中に業界の「取り組み声明」があるとないとは大違いです。1か月前から一般紙の取材があつたわけですから、もっと対応できたはずですよ。

日遊協では記者に「25日の声明を出してから記事にしてほしい」と要請したのですが、新聞も競争の中で記事を書いてしまいます。業界はともすると業界内と行政だけに目を向けがちで、メディアや社会を見る認識がまだ十分ではありません。これからは社会の動向

に対する共通認識を持たねばなりません。

マスコミの取材に「リスク管理」が要

特にマスコミ対応にとって不可欠なのは「リスク管理」です。前もって情報発信を準備し、取材対応を考えておかねばなりません。またいざ社会的な報道が行われようとするときは、大きい小さいに関わらずリーダーの指導力と決断が重要です。組織の長はリーダーシップを取り結果責任を負うべきです。取材が始まってから「首をすぼめて時間稼ぎをしたらそのうちに」などという発想は、もう通用しません。

——今年に入って、健全化声明として「くぎ問題」に関する21世紀会声明が出ました。

庄司 ようやくであったとしても、業界全体が遊技機の入替えを促進するために「当該機の可及的速やかな撤去回収」を決めたことは、社会的にもよかったです。時間がかかったとしても、業界全体がひとつになることは、絶対的な優先事項です。ただ、今回の21世紀会声明について一部マスコミに伝わらなかったのは残念です。

新台や下取りでメーカーは対応を

——2月10日と3月2日に日工組から「回収対象機」が発表されましたが、今後の展開は。順調に撤去は進むのでしょうか。

庄司 「可及的速やかに」というのは「3か月以内」にと要請していますが、回収対象機は「流通できない、部品交換できない」のですから一つのメドだと思えます。ただ、新しい機械の供給がどうかという問題があります。新台を作るのに通常は2年かかります。その上、このところ保通協におけるパチンコ機の適合率が下がって、出荷を待たされている状況があります。特に島を形成する人気機種については、メーカーの効率的な対応を求めたいですね。

ホールにとつては回収機の下取り価格が気になるところで、メーカーは誠意をもって当たってほしいし、ホールも無理難題をおつけないのはよくないでしょう。いずれにせよ、下取りの問題が遊技機の入替えのネックにならないようにしなければなりません。

日遊協は、現在の状況を1日で

も早くクリアにしていくために、各関連とも協力しながら、世間の目から見てもおかしくない当該機の回収撤去、新台の導入を進めていきます。

高射幸性からの脱却へいい機会

「くぎ問題」の本質は高射幸性の問題です。「高射幸性機の優先的撤去」とどう関連してきますか。

庄司 確かにくぎの問題の本質は射幸性にあります。15年くらい前から遊技機が変化してきました。メーカー間、ホール間の競争が激しくなり、売り上げを伸ばす機械が主流とならざるを得なくなり射幸性が上がっていきました。

その結果、お金を使うお客様を大切にすぎる傾向が顕著になってしまった。機械の高騰を招いたうえ、以前ならメーカーは数機種提示していたのに1機種で押し返すようになってしまいました。現在の経営状況を見れば、明らかに行き過ぎた面があるため、業界としてパチンコ、パチスロとも高射幸性機の優先的削減に取り組んでいるわけです。

「くぎ問題」の回収撤去の方が緊急性があるわけですが、ホールと



3月の第6回理事会で議長を務める庄司会長（正面列の右から3人目）

しては並行して効率的に処理していくことになるでしょう。言い方は悪いですが、この機会を大事にとらえて低射幸性を追求していくべきです。

変化ある遊技性 行政へもお願い

「今回、行政当局との折衝なども多かったですね。警察庁と緊密な関係は維持していますが、更に必要なことがありますか。今後の

遊技機の在り方と大きく関係しますが、風営法の改定のお願いなどどう展開していくおつもりですか。

庄司 日遊協は行政当局と長く信頼関係を築いてきています。情報を常に交換し、指導を仰ぎ、相談を持ちかける繋がりをこれからも大切にしていきます。高射幸性から大衆性へ、ハードユーザーからライトユーザーへ移行していくために、バラエティーに富んだゲーム性を認めてもらえるようにお願いしていきたく思います。画一的で難しい機械の状況から、台を選べて素直に楽しめる遊技ルールを求めていきます。

業界の自主的な健全化のために検査機関である健全化推進機構にも要望があります。第3者機関として行政当局に情報をあげるのは当然ですが、どういう問題や不正があるのか我々にも具体的なデータや情報を出していただきたいのです。それが業界の自己規制につながっていくと思います。

過度な射幸性を抑制できる機械を

「いずれにせよ遊技機自体の在り方が重要ですが、「近い将来の遊技機」についてECO遊技機も含

めどう展望しますか。

庄司 ECO遊技機はどうなるかまだ展望をつかめないところがありますが、今後の機械が求められるのは射幸性の管理です。くぎがどうなっているかは本来の問題ではなく、例えば、出玉が極端になつたときアラームが鳴って射幸性をコントロールできるものなど、「結果を測る」システムが求められます。

顧客の減少は致命的になるので、すから今後10年先を見通して、一部のみにたくさん当たるのではなく幅広く当たる適度な射幸性の遊技に変更し、過度な射幸性を示した場合抑制されるような機械が必要になります。新台を設置した場合でも、コンピュータで確認して出玉が極端な台は撤去することができるようになっていくシステムが大切です。

「新流通」で成果 運用面で協力を

「正しい流通も遊技機を支えるわけですが、新台設置・部品交換のルールとして「健全化要綱」「業務委託規程」が出来たのですが、運用についての考え方は。

庄司 新しいルールは、不適切な

遊技機流通や行政手続きを防止し、責任の明確化が目的です。この要綱と委託規程が出来て、遊技機の流れが設置から廃棄まで結ばれました。遊運連についての規程なども盛り込まれ、産業界としてより広い連携を持てることになりました。この問題は日工組、日電協の努力と日遊協のスタッフの協力で、一定のスピード感を持って制定できたと思います。

ただ、書類関係、現場でのやり取り、委託の実際など運用面では課題が出てくると思いますので、メーカー、ホール、販社の団体が協力して解決を図っていくべきでしょう。

——新しい流通制度によって、取扱主任者の役割が広がり、特にホールの取扱主任者新規講習・試験の受験者が増えますが、日遊協の対応は。

庄司 すぐに大多数の人々に対応はできないので、経過措置として店舗管理者が代行することになっているわけですね。日遊協としては人的対応、講習の在り方の再検討、運用における機械化などをなるべく早く進め、増える講習・試験を軌道に乗せていくつもりです。

ときには冗談を織りまぜて質問に答える庄司会長

トータルなPR 真剣に考える時

——今回の「くぎ問題」においても社会に対するPRが重要であることを再認識させられました。

庄司 社会に対するアピールが不得意な業界です。メーカーもホールも営業的な広告は、テレビ、ネット、紙媒体を使って熱心なのですが、業界の社会的な地位向上のPRがなかなか出来ません。個々の団体ではある程度意識されていますが、やはり業界全体としてどうPRを具体化するか真剣に考える時期が来たと思います。

それには、我々の議論だけでなく、マスコミに関する専門家の知

恵を借りることが肝心です。PRには効果と逆効果があるので、具体的な対応知識が必要です。

委員会活動通じ 社会へ呼びかけ

——業界の社会的認知度を高めるために、日遊協は委員会活動などで奮闘していると思いますが、現在4委員会と2プロジェクトの構成で活動しています。

庄司 日遊協の委員会やプロジェクトチームは、比較的若い人たちが集まっていますので、機動性に優れていると思います。人材育成委員会が主催する学生への「リクナビ合同説明会」も将来を展望した試みですし、「女性活躍推進フォーラム」は時代に即した社会的な取り組みです。

これらは社会に對する一種の呼びかけになっており、社会貢献・環境対策委員会の「共生の森」、広報調査委員会の「ファンアンケート調査」「メディア交流会」なども有意義です。

気を付けなければいけないのは、プロジェクトはどうしてもマンネリ化しがちですから、常に新しい風を取り込んでほしいと思います。また、このような社会と接点を持った試みが業界全体で取組まれるといいのですが。

依存問題対策の 基本は「注意喚起」

——これも社会との関係で重要な依存問題ですが、依存問題対応ガイドライン、教育DVD、自己申告プログラムもできて、形は整ってきたようです。

庄司 全日遊連など活性化委員会のオブザーバーの協力を得て、依存問題PTが一応の形を作ったことは評価できることです。今後、DVDの利用など自身の具体化を着実に進める工夫が大事です。

依存問題の対応の基本は、お客様に對する「注意喚起」です。揭示でも接客でも、あるいは放送でも日常的にホールが取り組み、行き過ぎた遊びにならないよう、ていねいな対応により効果が期待できるはずですね。また、依存の人を支援してくれている組織、施設などとの連携も欠かせないポイントでしょう。

カジノに対して 基本姿勢の準備

——依存問題の関連で、カジノに関する国会の状況や今後の展開については、どのようにお考えですか。

庄司 カジノの国会審議は、参院選などを控えて、今すぐに審議が行われることはないでしょうが、いずれ近い将来に質疑が始まるでしょう。当然、カジノにおける依存問題の関連でパチンコが狙上りのぼることは避けられません。

最近、衆議院に維新の党から不正機撤去、射幸性規制、依存問題に関する「質問主意書」が二つ提出され、それに対する「答弁書」も出されました。既に国会でやり取りがあるのですから、業界の基本的姿勢、具体的施策をいつでも出せるように準備しておくのは当然です。

「ちよいパチ」では 新しい展開期待

——委員会活動など、どんな問題に対しても日遊協は横断的組織であることが影響します。最近は日工組、日電協の団体加盟がありました。

庄司 遊技機委員会などは一番横断的な要素が必要な所です。内藤

委員長を先頭に日工組が提案し日遊協のホールが手伝う「ちよいパチ」計画などは団体加盟の大きな力であり、業界全体の広がりを持つものです。現在参加メーカーも16社になり、「確率40分の1未満」など特徴を鮮明にした遊技機が6月以降、ホールの一角を占めることになるでしょう。機械代も従来の半分前後になることが期待されます。

遊技機委員会は4月29、30日にニコニコ超会議の「フェスタ2016」を展開しますが、ブースでの催し、試打機など若者にアプローチする絶好のチャンスをつかんでいると思います。このフェスタなど社会的なアピールのサンプルでもあります。「ちよいパチ」も登場するそうですから、ファンの反応を知りたいですね。

気楽な息抜きに 立ち寄れる場所

——業界の全てを決めるのはお客様ですが、メーカー、ホール、販社などの経営がよりよく成り立つための遊技環境というものはどんなものでしょうか。

庄司 将来に渡ってどういうお客様に来ていただきたいのか、我々

がまずはつきりさせる必要があります。一部のコアなお客様を頼りにすることは本来の大衆娯楽からはずれるばかりでなく、営業的に将来がないことは誰もが感じていることです。広い層の人たちに、数多く来ていただく政策しかありません。

まずサラリーマンが帰宅時に気楽に楽しめ、あるいは自営業の人が仕事の合間にちよっと寄って息抜きできる環境も必要です。バラエティーに富んだ機械が用意され、常識的には1時間遊んで3〜5千円という線に落ち着くでしょう。そのためには、高射幸性を排した機械が必要になり、低価格な機械も必要になります。また機械のゲーム性も複雑すぎでは持続しません。

そもそもパチンコはくぎと玉の動きを楽しむ遊びでした。そこへ帰るのか、新たな道を探るのか。パチスロも今の難しいゲームのままでいいのか考えねばなりません。これらの課題をクリアするには、今までと違って、メーカーとホールが具体的に意見を出し合い、戦略を立て、双方の納得する遊技機を作り上げなければなりません。

それらの遊技機が人々のライフスタイルに合い、選択幅のあるものになれば展望が開けます。

将来を見据えた 健全な政策こそ

——昨年から今年にかけて「くぎ問題」を中心にさまざまなご苦労があったと思いますが、パチンコ・パチスロ業界の将来についてどうお考えですか。

庄司 20兆円を超える規模の産業は、社会のなかで大きなウェイトを占めています。それだけに私たちは「業界の常識は社会の非常識」であってはいけません。パチンコ・パチスロ業界は常に社会的視野のなかで経営し、社会の要請に对应していくべきです。常に環境の変化に対応することが大切です。その上で、先輩が育ててきた産業の方向性を定め、さらに確固たるものにする使命があります。そのため常に10年先、20年先を展望することが大切です。私も、次世代の人々が健全な姿で営業し成長を続けられるように、必要な政策を実現する努力を惜しまないつもりです。

——お忙しいなか、インタビューありがとうございました。